さまざまな障害とその特性に応じたコミュニケーション

聴覚障害

生まれつき（遺伝、病気等）や後からの理由（事故、薬害、加齢等）により、聞こえない、または聞こえにくい障害です。「ろう」「難聴」「中途失聴」などがあり、聞こえの状態はさまざまです。外見からは分かりにくく、周囲から気づかれにくい、情報・コミュニケーション障害とも言われます。

主なコミュニケーション手段・配慮

- 手話、筆談、要約筆記、口話、身振り、振動、光などの目に見える手段で情報を取得しています。その人に合わせた手段で伝えてください。

盲ろう

視覚と聴覚の両方に障害がある状態です。「全盲ろう（まったく見えず、聞こえない）」「全盲難聴（まったく見えず、聞こえにくい）」「弱視ろう（見えにくく、聞こえない）」「弱視難聴（見えにくく、聞こえにくい）」の４つに分かれます。情報の取得や移動などさまざまな場面で難しさがある障害です。

主なコミュニケーション手段・配慮

- 見え方や聞こえ方、盲ろうになるまでの経緯により、触手話、指点字、手書き文字、接近手話、筆談、拡大文字、音声など必要な手段は異なります。その人に合わせた手段で伝えてください。

視覚障害

全盲（まったく見えない）、または見えにくい（弱視／ロービジョン）障害です。見える範囲が狭い、一部が見えにくい人、色への配慮が必要な色覚障害の人もいて、見え方や困っていることは人それぞれです。白杖を持っている人や、盲導犬を連れている人もいます。

主なコミュニケーション手段・配慮

- 点字、音声（音訳）、拡大文字などで情報を取得しています。
- 代読、代筆などの手段を用いて伝える時もあります。
- 方向や場所は具体的に伝えてください。

精神障害

統合失調症やうつ病、双極性障害などの精神疾患により、さまざまな生活のしにくさがある障害です。

気分の落ち込み、集中力の低下、不安、不眠、幻覚、幻聴、妄想などの症状が表れる場合もあります。

主なコミュニケーション手段・配慮

- 本人の症状を理解して関わることが大切です。
- 焦らずに落ち着いた話し方を意識する、安心して話しのできる静かな場所を用意するなどの工夫をしてください。

手話は言語

手話は、音声言語でもある日本語とは異なり、手や指、体の動きや向き、視線や表情など視覚的な独自の文法をもった言語です。昔、手話は言語として認められておらず、手話を使用する環境が整えられていない時代がありました。今は障害者権利条約、障害者基本法、手話に関する施策の推進に関する法律（手話施策推進法）に『手話は言語』として位置づけられています。

今後も一人ひとりが手話を理解し、社会に広めていく必要があります。

肢体不自由

生まれつきや後からの理由により、手や腕、足のまひや欠損、体幹機能障害のため、体を動かすこと、姿勢を保つことなどに難しさがある障害です。杖や装具、車いすなどを使用している人もいます。はっきりと発声することが難しい場合や、不随意運動（意思とは関係なく、体や手足が動く）などで意思を伝えにくい人もいます。

主なコミュニケーション手段・配慮

- 文字盤や意思伝達装置などを使う場合もあります。
- 聞き取りにくい場合は、確認しながら進めてください。
- 車いすの場合は目線を合わせてください。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）

身体を動かすための筋肉が徐々に動かなくなる、原因不明な進行性の難病です。症状が進行すると、言葉を発することも難しい状態になっていきます。

主なコミュニケーション手段・配慮

- 症状の進行具合により、手段の工夫や変更が必要です。
- 声で伝えることや筆談も難しい時には、文字盤や絵カードなどを指や視線で示してもらう方法もあります。

高次脳機能障害

事故や病気などで脳にダメージを受け、記憶力や注意力、思考力、感情のコントロールなどに障害が残る状態です。失語症になる場合もあります。　体に障害がない場合、外見では分かりにくく、「見えない障害」と呼ばれることもあります。

主なコミュニケーション手段・配慮

- 会話や行動はゆっくりと具体的に伝えてください。
- 目に見える方法で確認するなどの工夫も必要です。

発達障害

脳の働きや発達の特性により、行動や学習、感覚の受け取り方などに難しさがある障害です。音や光などを強く感じる人、反対に感じにくい人もいます。知的な能力に遅れがある場合とない場合があり、持っている特性は人それぞれです。

主なコミュニケーション手段・配慮

- 短い言葉、実物、絵、写真、身振りなどを交えて、具体的に分かりやすく伝えることが安心につながります。
- こだわりや特有の行動を理解し、刺激を強く感じやすい人へは静かな場所を用意するなどの工夫をしてください。

知的障害

発達期において、知的な能力が年齢相応に発達していない脳の機能障害です。「理解する」「覚える」「判断する」「抽象的なことを考える」ことに難しさがあり、時間がかかる場合などがあります。

主なコミュニケーション手段・配慮

- できるだけ短く、分かりやすい言葉で伝えてください。
- 実物や絵、身振りなど具体的な方法や、漢字にはふりがなを付けるなどの工夫も大切です。
- 想定外のことがあるとパニックになる場合があります。その時は落ち着くまでしばらく見守りをしてください。

【音声コード Uni-Voice】

印刷物の文字情報を二次元コードに変換したものです。スマートフォンの専用アプリで読み取ると、音声の読上げとテキスト表示ができる仕組みです。

視覚障害のある方が、コードの位置が分かるよう、印刷物の端に半円の切り欠きを入れています。

※専用アプリ（Uni-Voice／Uni-Voice Blind）